

本日の目的:江戸幕府の仕組みと初期外交政策について理解する

○江戸幕府の特徴

- ① 外様大名の排除➡要職は譜代大名・旗本が担当。
- ② 監察の発達➡大目付、目付によって監視。
- ③ 月番制・合議制の採用
➡複数名で担当された役職は月で交代。重要事案は月番・非番で審議。
- ④ 行政・司法の未分離 ⑤ 戦時に対応➡直参（旗本・御家人）＝常備軍

○幕府の中央組織

《 譜代大名 》

1 _____ : 1名、臨時の最高職

2 _____ : 幕政を統括

3 _____ : 寺社・寺社領を統括

側用人 : 1名、将軍の側近

大坂城代 : 大坂城の管理

4 _____ : 朝廷の監視、京都の治安維持

5 _____ : 老中を補佐

《 旗本 》

6 _____ : 大名の監視

7 _____ — 与力 — 同心
➡江戸の行政・司法・警察

8 _____ — 郡代 — 代官
➡財政・天領の統括

城代 : 駿府・二条・伏見

町奉行 : 京都・大坂・駿府

奉行 : 長崎・日光など

9 _____ : 旗本・御家人の監察

○ヨーロッパ諸国との関係

A. 10 _____ の来航…11 _____ (布教より)貿易の重視

➡プロテスタント国の台頭VSカトリック国 ex. イスパニア・ポルトガル

➡イスパニア無敵艦隊、イギリス軍に敗北(1588)

・ 12 _____ 設立 : 重商主義政策の一環として国家政策として実施

➡英は1600年創設、アンボyna事件以降、インドへ

➡蘭は1602年創設、ジャワ島のバタビア(現ジャカルタ)中心

・ オランダ船13 _____ 号の豊後(現大分県)漂着

➡14 _____ (英、日本名 三浦按針)

➡15 _____ (蘭、日本名 耶揚子)

} 家康の外交顧問となる

・ 平戸で貿易開始…蘭(1609～)、英(1613～)

○ポルトガルとの関係

16 _____ 制度（1604）：のちに中国、オランダにも適用

目的：葡の暴利抑制・貿易の統制・幕府の利益

➡特定商人（糸割符仲間）が生糸を一括購入

➡五カ所商人：京都・長崎・堺、江戸・大坂（1631）

【仕組】糸割符仲間のトップである糸割符宿老がポルトガル(中国)と毎年4月に協議し、その年の価格を決定

○スペインとの関係：17 _____ 号事件（1596）以降、関係悪化
※豊臣政権時に漂着した西船の対応を巡る問題

・18 _____ 号漂着（1609）

➡前フィリピン総督ドン＝ロドリゴを送還

・徳川家康：19 _____ ：派遣※記録上、日本人初の太平洋横断を達成

➡スペインとの通商交渉のためメキシコへ➡失敗

・20 _____ ：21 _____ 派遣（1613）➡失敗

➡22 _____ 遣欧使節（教皇パウロ5世に謁見）

＜本日のまとめ＞

・幕府の要職は譜代大名と旗本が担当し、彼らを監察する役職が設けられた。

・江戸幕府は将軍独裁の傾向が強い一方で、将軍以外に権力が集中しないよう、要職就任期間は短く設定されるとともに評定所では合議制がとられた。

・江戸時代になると南蛮貿易の主な商売相手であったポルトガル・スペインからイギリス・オランダへと変化していった。